

令和 5 年度（令和 5 年 1 2 月現在）

事 業 報 告

－ 「学び」と「遊び」の活動交流拠点 －



前橋市児童文化センター

令和5年度 事業の概要

I 運営目標

子供たちの文化活動の中核として、科学的な原理・法則や環境保全について総合的・体験的に学ぶ活動や、文化芸術に触れたり自己表現をしたりする活動、交通安全教育、多様な体験や交流活動の機会の充実等に係る事業などを行い、多様な人とかかわりながら、個性を生かし、夢に向かって主体的・創造的に活動する子供の育成を目指す。また、新型コロナウイルス感染症の5類移行を踏まえた事業展開に努める。

II 本年度の重点施策

1 交通・天文・環境教室の充実

(1) 交通教室の充実

[目標・ねらい]

- 全小学校4・6年生及び希望する中学校・特別支援学校を対象に自転車教室を実施することにより、交通事故を防止しようとする態度や能力を育てる。
- 幼稚園・保育所(園)・特別支援学校等を対象に歩行教室を実施することにより、交通事故を防止しようとする態度や能力を育てる。

[今年度の重点]

- ①小学校・中学校・特別支援学校
 - ・自転車に不慣れた児童の練習の場を設け、引率者が指導できるよう、乗り方の助言、職員配置等の工夫、指導方法の改善に努める。
 - ・自転車に乗る経験が少ない児童のため「親子自転車乗り講習会」を開催し、操作習熟を図る。
- ②幼稚園・保育所(園)・特別支援学校
 - ・入園、入学後の安全な登下校のため、年長児等を対象として道路の歩行を重点に実施していく。

【実施状況】

- ・小学校 : のべ94校186回, 5,217人
- ・中学校・特別支援学校 : 3校3回, 43人
- ・幼稚園・保育所 : 未実施(令和6年1月より順次開始)

◇交通教室の評価(事後調査)

- | | |
|-----------------------------------|-------------|
| (1) 4年生 : 学習内容が学校のねらいに即したものになっていた | 100%(50/50) |
| 交通安全に対する児童の意識・関心・意欲・態度が高まった | 100%(50/50) |
| (2) 6年生 : 学習内容が学校のねらいに即したものになっていた | 100%(/50) |
| 交通安全に対する児童の意識・関心・意欲・態度が高まった | 100%(/50) |

(2) 天文教室の充実

[目標・ねらい]

- プラネタリウムの機能を活用した天文教室を実施することにより、子供たちの宇宙や天体への理解を深め、観察への意欲を高める。
- 実際に天体を観察する移動天文教室を実施することにより、子供たち及び保護者の天体に関する興味・関心を高める。

[今年度の重点]

①小学校

- ・事前打合せによる理科の授業の現状把握と、学校ごとの実態に応じた展開や理科授業者の参加を引き続き促すとともに、充実に向けたタブレット PC を含む IT の効果的活用方法を含め内容の改善に努める。
- ・移動天文教室では、実際の天体観察を通して宇宙や天体への興味・関心の向上を図るとともに、学校の理科学習の振り返りにつなげられるよう努める。

②幼稚園・保育所（園）

- ・Web ページでの情報提供や事前打合せ等による適切な番組選択、実態に応じた星空解説に努める。

【実施状況】

①学習投影

- ・小学校 : のべ 93 校 183 回, 5, 118 人
- ・中学校・特別支援学校 : 実施なし（令和 6 年 1 月に実施予定あり）
- ・幼稚園, 保育所 : 未実施（令和 6 年 1 月より順次実施）

◇天文教室の評価（事後調査）

- 4 年生 : 学習内容が学校のねらいに即したのになっていた 98%(46/47)
天文に対する児童の意識・関心・意欲・態度が高まった 100%(47/47)
- 6 年生 : 学習内容が学校のねらいに即したのになっていた 100%(46/46)
天文に対する児童の意識・関心・意欲・態度が高まった 100%(46/46)

②移動天文教室

- ・小学校 : 3 校予定, 317 人（1 校実施、2 校は天候不良のため中止）

(3) 環境教室の充実

[目標・ねらい]

- 児童文化センターの自然や施設、学校の環境を活用した主体的・対話的な環境教室を実施することにより、学校における環境教育の一層の充実を図るとともに、環境に対する児童の関心・意欲を高める。

[今年度の重点]

①各学校の教育課程に対応した柔軟な事業対応

- ・実施内容を家庭に周知し、家族と一緒に環境を考えられる教材の充実をさらに進める。
- ・新プログラムも含め学習展開、教材などを指導担当者で話し合い、内容の充実をさらに図る。

②学校の環境教育充実のための外部との連携強化

- ・教科や環境教育に「環境教室」を位置付けるよう引き続き依頼し、ニーズに応じた支援を実施する。
- ・学校教育課と連携し、環境教育主任会への情報提供や教育内容に関わる支援に努める。
- ・環境森林課などと連携して専門的知識をもつ担当職員を講師に招聘し、より深い学びを実現していく。

【実施状況】

①環境教室

小学校 : 47 校 (92 回) 実施, 2, 616 人

実施したプログラム（4種類）	実施校数	実施学級数	実施人数
「空気のごれを調べよう（窒素酸化物調査）」	10校	22回	626人
「水のごれを調べよう（COD調査）」	9校	16回	443人
「絶命危惧種のすんでいる環境を調べよう（守ろう！前橋のメダカ）」	25校	49回	1,406人
「自然エネルギーを生かした発電の仕組みを調べよう（発電方法等）」	3校	5回	141人

◇環境教室の評価（事後調査）

5年生：児童の環境に対する意識・関心・態度等を高めた 100%（47/47）

自校の環境教育の充実につながった 100%（47/47）

②学校への環境教育支援等

小学校3校（野生メダカの提供：1校 試薬提供と学習展開や教育課程の支援：1校

親子環境教室講師：1校）

③情報提供

前橋市初任者研修「児童文化センターにおける取組」（11月14日）

2 自然体験活動の充実

[目標・ねらい]

- 効果的な活動例の提示や相談などを行うことにより、学校等の児童生徒主体の自然体験活動を支援する。
- 人材の紹介や自然体験活動講師の派遣等を行うことにより、学校や林間学校における自然体験活動の推進を図る。
- 教員に対する自然体験活動の研修を実施することにより、自然体験活動の充実を図る。

[今年度の重点]

①学校対象

- ・事前・事後の活動の進め方や有効活用への助言、具体的アドバイスを行うなど、積極的なコーディネートを進める。
- ・指導の展開事例を再検討し、児童生徒がより主体的に取り組み、関心や意識を高められるようさらに内容の充実を図る。
- ・講師や事例の紹介などで、林間学校以外の自然体験活動も推進する。
- ・講師と連携作成した「森のパワーを探してみよう」を活用した実践事例を評価・検証し、さらに内容の充実を図る。

②一般市民対象

- ・業務委託により、自然観察会やネイチャークラフト、親子トレッキング等を実施する。

【実施状況】

①学校対象

○小中学校林間学校

小学校第5・6学年および中学校第1学年 実施時期：5月～10月

○小中学生自然体験活動支援事業

小中学校が行う自然体験活動に対する講師紹介と講師派遣および講師謝礼支払

- ・令和元年度実績：小学校39校，中学校17校（林間学校，その他の自然体験活動）
- ・令和2年度実績：小学校30校，中学校2校（一日自然体験活動）
- ・令和3年度実績：小学校41校，中学校8校（一日自然体験活動）
- ・令和4年度実績：小学校50校，中学校16校（林間学校，その他の自然体験活動）

- ・令和5年度実績：小学校 70 校、中学校 18 校（林間学校、その他の自然体験活動）
- 林間学校の使用施設
 - 小学校：赤城少年自然の家 2 校，国立赤城青少年交流の家 29 校，その他の施設 15 校
 - 中学校：赤城少年自然の家 20 校
- 尾瀬ネイチャーラーニング支援事業（群馬県主催事業）
 - 令和5年度は実施校なし
- 指導者講習会の開催（赤城少年自然の家とその周辺で計画）
 - ・林間学校指導者講習会（主に中学校教諭対象：24 名） 4 月 25 日
自然体験活動体験，カッター実習，施設見学，自然体験活動補助事業の説明等
 - ・小学校自然体験活動指導者講習会（主に小学校教諭対象：47 名） 8 月 18 日
ネイチャーゲーム実習，自然体験活動体験，学習指導要領への位置づけと意義，実施計画案の作成（講義と実習），自然体験活動補助事業の説明等

②一般市民対象

- 自然体験活動推進事業（委託）
 - 赤城山の自然環境を活用した体験活動の推進
 - ・自然観察会，ネイチャークラフト等（ぐんま緑のインタープリター協会） 3 回実施
 - ・赤城山親子トレッキング等（ぐんま山森自然楽校） 4 回実施

★環境教育関連マップ修正

3 科学・文化芸術教育活動の充実

(1) クラブ活動の充実

[目標・ねらい]

- 科学・文化芸術に関する様々なクラブ（環境冒険隊・宇宙・ジュニアオーケストラ・合唱団・演劇・発明）を実施することにより、子供たちの個性や能力を伸ばし、人と関わる力を育てる。

[今年度の重点]

- ・豊かな体験の場、自らの成長を実感できる主体的活動の場となるよう、活動内容の精選や改善を図る。
- ・指導教員の資質向上の場として、学校教育課、総合教育プラザと連携した講師育成や一般講師の人材開拓に努める。
- ・充実した活動を維持し継続するため、基本的な感染症対策を実施するとともに、活動場所の確保等担当者間の連携を密にする。

【実施状況】

クラブ名	クラブ員数	実施回数・日	主な内容
合唱団	小1～中2 41人	毎週日曜日 32回実施 (41回予定)	・同声2部合唱，3部合唱の練習 ・成長段階に合わせた合唱曲のグループ練習 ・2月11日（日）定期演奏会開催予定
少年少女 発明クラブ	小4～中2 前期21人 後期22人	隔週日曜日 21回実施 (23回予定)	・発明の基礎学習 ・発明考案作品製作 ・前橋市発明考案展・群馬県創意工夫展等への出品 ※公開発明教室の実施（年2回）
演劇クラブ	小1～中3 12人	月2～4回 19回実施 (30回予定)	・発声練習，ダンス練習等 ・児童文化センターでの発表(10月実施・3月予定) ・プラネタリウム番組制作に声優として参加

宇宙クラブ	小4～中3 18人	主に土曜日 5回実施 (11回予定)	・天体望遠鏡を用いた観測会の実施及び星や星座の学習 ・プラネタリウムなどの施設設備を利用した天文学の基礎的な学習 ・市民天文教室との同時開催及び所外施設の利用（ぐんま天文台）
ジュニア オーケストラ	小1～高3 56人	隔週日曜日 20回実施 (29回予定)	・ヴァイオリン楽器演奏の基礎、基本 ・4グループに分かれての練習、合奏 ・2月11日（日）定期演奏会開催予定
環境冒険隊	小4～小6 20人	月2～3回 土曜日 15回実施 (18回予定)	・自然の中での遊び、生き物調べ、自然観察、環境調査 専門家を講師に招いての体験活動 ・県エコクラブ学習会への参加（1/13 児童文化センター）

(2) 多様な科学・文化芸術に関する教室の充実

[目標・ねらい]

○科学・文化芸術に関する教室(夏季教室、わくわく教室等)を実施することにより、子供たちの興味・関心を広げ、多様な体験活動を推進する。

[今年度の重点]

- ・子供たちの多様な体験活動の支援を行う市民活動を支援し、連携・協働・情報交流を進める。
- ・環境教育やSDGsを視野に入れた新しい教室の実施を引き続き検討する。
- ・基本的な感染症対策を行い、活動内容の精選や改善、支援の在り方を検討する。
- ・実施状況や内容を参加者に伝えるWebページの充実や、閲覧の働きかけを継続する。

【実施状況】

教室名	対象・人数	実施回数・日	主な内容
わくわく教室	主に小学生	14回実施 (19回予定)	・理科・造形・音楽・科学・工作を体験する教室等 (5年度は「プラネタリウムをみて、星空の香りを作ってみよう(ワンダーネイチャーラボと共催)」、「SDGsカードゲームでSDGsを知ろう！(まえばしし市民提案型パートナーシップ事業との共催)」等を実施)
夏季教室	主に小学生	夏季休業中 10回実施	・科学・造形・文芸・歴史教室等 (光るどろだんご、空気砲、俳句、化石レプリカ等)
親子自然 体験教室	小1～小3 親子	3回実施	・覚満淵周辺の散策とカッター実習、ピザづくり等
こども公園 環境教室	一般市民	日曜日 4回実施 (5回予定)	・こども公園の自然(桜、野メダカ、水中微生物、植物、土の生物等)を活用した環境教室
市民天文教室	一般市民	1回実施 (4回予定)	8月13日「ペルセウス座流星群と夏の星座、惑星を見よう」(天候不良のため中止) 9月29日「中秋の名月を見よう！」 12月12日「ふたご座流星群と惑星を見よう！」(天候不良のため中止) 2月17日「月の撮影会をしよう！」(実施予定)
プラネタリウム コンサート	一般市民	2回実施	・プラネタリウムでの星に関係した音楽の生演奏 7月2日「弦楽とピアノによる銀河の旅」 10月14日「秋の星座とハンドベルの響き」

親子自転車 乗り練習会	小3以上 親子	3月3回予定	3月2日・9日・16日（実施予定）
----------------	------------	--------	-------------------

(3) プラネタリウムの番組の制作と投影

[目標・ねらい]

- 毎月更新される自主制作プラネタリウム番組の提供と、対話型の星空解説を取り入れた質の高いプラネタリウム投影を実施することにより、観覧者の天文への興味・関心を高める。
- 市民天文教室やプラネタリウムコンサートなど、投影の内容や方法を工夫することにより、多くの市民が宇宙や天文現象に触れる機会を提供する。

[今年度の重点]

- ・天文現象等の情報交換、時季に応じた星座解説などの計画的な研修により、職員の能力向上を図る。
- ・番組制作に携わる市民との連携を密にして、充実した内容で分かりやすい番組を制作していく。
- ・市民天文教室でのプラネタリウムの活用や、プラネタリウムコンサートの実施方法を引き続き検討する。
- ・天文現象等に触れる機会となる新企画を検討する。
- ・来場者アンケートを実施し、その意見を基に充実した投影に繋げていく。
- ・団体投影の対象を広げていくための周知方法を検討する。

【実施状況】

①プラネタリウムの番組制作

制作期日 4月～3月(新作8本) 6作完成
 制作内容 星座のお話(星座にまつわる物語) 新作4本
 天文学シリーズ(天文学に関わる基礎的な内容や話題) 新作4本
 制作者 原画作成、音楽作成、台詞録音:市民・演劇クラブ団員等の協力
 シナリオ作成、音声・映像編集、投影プログラム作成:センター職員
 番組編集のプログラミングは業務委託

②プラネタリウムの投影とその工夫

- 一般投影
 - ・100人定員のところを50名(令和4年10月15日～)程度に限定して実施。令和5年5月からは100人定員に戻して実施。
 - ・投影回数 518回、観覧者数 11,155人
 - 団体投影
 - ・投影回数 11回、観覧者数 435人
 - プラネタリウム・チャレンジ7 6月～2月
 - ・3回(86人)、5回(14人)、7回(12人)
 - 群馬県プラネタリウム連絡協議会スタンプラリー 7月～2月
 - ・県内のプラネタリウム施設9館、天文台1館の計10か所を巡り、スタンプを収集
 - ・3館(24人)、5館(5人)、10館(0人)
 - 特別投影
 - ・プラネタリウムコンサート
 - 7/2 2回実施(109名)、10/14 2回実施(140名)
- ※例年行っていた以下の内容は、新型コロナのため実施しなかった。
- プラネタリウムデビュー(中止)

○プラネタリウムフォトジェニック（中止）
 ★メディア（ラジオ）を用いた紹介や、プラネタリウム紹介のチラシ掲示・配布などによるプラネタリウムの周知
 ★プロジェクター更新に向けた取組：投影用画像の撮影

4 遊びの充実と多世代交流の推進

(1) 各種イベントや体験的な事業の推進

[目標・ねらい]

○「わくわくチャレンジコーナー」「冒険遊び場」などを実施することにより、子供たちの体験活動を充実させる。

[今年度の重点]

- ・子供たちの主体性を育む活動となるよう、企画の見直し、指導内容の検討・確認、講師との事前打合せを十分に実施する。
- ・「わくわくチャレンジコーナー」指導に参画する大学生を募集してコーナーの継続に努め、体験活動を充実させるよう講師研修を継続実施する。
- ・新型コロナウイルス感染症の5類移行を踏まえ、ボランティア参画によるイベントや活動の再開を進め、体験活動の拡充に努める。

【実施状況】

活動名	参加者数	実施日	主な内容
わくわくチャレンジコーナー	88回 5,905人	土日祝日 学校休業中 9:30～11:30 13:00～15:20	・サポートスタッフの発案による幼児から楽しむことができる工作 ・会場を会議室から停本所のオープンスペース（コロナ禍前会場）に復帰、参加者が大幅増。新たな講師学生を増やすため各大学への呼びかけを図り、卒業者に代わって指導に参画する学生を増やしている。
冒険遊びゾーン	219日 46,192人	毎日	・新型コロナ5類移行に伴い、施設の大部分を開放。土日祝日・長期休業期間に寄贈品を含む各種の遊具利用提供を再開した。 ・ただし夏季の高温が続いたため、猛暑日については熱中症を避けて遊具の搬出・開放を中止
停本所	223日 24,020人	毎日	・「わくわくひろば」での読書推進や本の貸し出しの他、児童文化センター事業の展示や紹介など、読書指導も行った ・新型コロナ5類移行に伴い、閲覧時間の制限等を解除
前橋市 幼小中特別 支援学校等 図画作品展	32園所 82点 55校 734点	5～7月 7～2月	・ほしのみち「ぐるぐる美術館」に市内幼保小中特別支援学校等の幼児児童生徒の図画作品を展示 5～7月（園所）7～2月（小中特別支援学校等）
理科研究発表 会優秀作品展	14校 19点	12月～2月	・市内小中特別支援学校等の理科研究発表会優秀作品を展示
こども春まつり	1,530人	5/5終日	・様々な感染症対策を施した上で「こどもの日を楽しもう」として実施
こども秋まつり	1,581人	11/3終日	・様々な感染症対策を施した上で「文化の日を楽しもう」として実施

(2) 交通安全に関わる体験の充実・こども公園の活用

[目標・ねらい]

○ゴーカートや足踏みカートを運行することにより、子供たちが遊びを通して交通ルールやマナーについて学ぶ機会を提供する。

○芝生広場・交通学習ゾーン・大型遊具・冒険遊びゾーンなど、「学び」と「遊び」の場を提供し、子供たちの健全育成を図る。

[今年度の重点]

- ・歩行や足踏みカートなどを活用して交通ルールやマナーが学べるよう、公園指導員を配置し、引き続き指導の充実を図る。
- ・ゴーカートの運転を実際に体験して交通ルールやマナーを学べる運用となるよう、安全性等を考慮しながら適宜検討を行う。
- ・冒険遊びゾーン内遊具は、職員の日常点検ほか適正な点検・補修を行い、安全な運営を継続する。

【実施状況】			
種別	利用者数	実施日	主な内容等
ゴーカート	69,896人	休日 9:00～16:30 平日 13:00～16:00 (12月は ～15:30)	<ul style="list-style-type: none"> ・コース上の安全確保の観点から最大5台で運行した(保有車両:ガソリン車11台,リース車両:EV車3台) ・既存車両のエンジン交換などを行い、体質改善を図った。 ・寄贈車1台を10月中旬から稼働 ・運行業務は業者に委託している ・新型コロナ5類移行後も、車両の消毒などを講じるとともに、社会的距離の確保や手洗いの励行について啓発を実施した
足踏みカート	34,826人	休日 9:00～16:00 平日 自転車教室のない日・時間	<ul style="list-style-type: none"> ・対象は小学校2年生以下で、小児は保護者がよく付き添っていた ・ゴーカート棟前の足踏みカート置き場に並び、1周走って交代する形式で運行した ・こども公園指導員の指導と放送の効果で、マナーを守って利用する親子が多かった

(3) 市民力の活用と多世代の交流

[目標・ねらい]

- 様々なイベントや「冒険遊び場」等で、ボランティア・青少年ボランティアの活動の場を提供することにより、市民力の活用を推進し青少年の育成を図る。
- ボランティア・青少年ボランティアが交流できる組織を充実させることにより、多世代交流を推進する。

[今年度の重点]

- ・ボランティアの会と情報共有や連携を図り、活動の活性化や自主的企画・運営に対して支援を行う。
- ・ボランティアの増員のため、ボランティア経験学生や視察学生等に対し積極的な声かけを行う。

【実施状況】
<ul style="list-style-type: none"> ○ボランティア活動の推進 <ul style="list-style-type: none"> 前橋市児童文化センターボランティアの会（現在登録者数 75名） ・ボランティア研修会の開催 1回（9月9日） ・「Go to チャレンジ！児童文化センター」実施 2回（6月10日、11月18日） ○青少年サポート事業 <ul style="list-style-type: none"> 中高大学生のボランティア活動のサポート ・共愛学園前橋国際大学長期インターンシップ 1名（9月14日～） ・共愛学園前橋国際大学短期大学 SD チャレンジ 2名（12月4日～12月28日）

- ・群馬県立勢多農林高等学校インターンシップ
2年生 3名 (9月14日～22日 6日間)
1年生 4名 (11月14日～16日 3日間)
- ・みずき中職場体験 3名 (9月13日)
- ・前橋五中職場体験 2名 (9月12日、13日)
- ・群馬大学共同教育学部 (わくわく教室 プログラミング)
10月21日 (低学年, 中学年) 10月22日 (高学年) 大学生9名
- ・群馬工業高等専門学校 (宇宙クラブ) 7月1日 学生5名

5 施設管理

[目標・ねらい]

- 安全安心に利用できる施設の管理・運営を図るため、施設・設備全体の管理計画に基づき、適切な修繕等を実施する。
- 公園管理事務所などの関係課と連携し、安全な環境の維持管理を行う。

[今年度の重点]

- ・令和4年度の外壁調査結果をうけた外壁改修修工事を実施する。
- ・環境教育等の有効活用のため、故障中の水車及び風車の修繕を実施する。
- ・プラネタリウムプロジェクターのメンテナンス期間終了に伴い、設備更新を適正に実施する。(3月更新予定)

【実施状況】

- ・前橋市児童文化センターバス置き去り防止装置設置業務 (5月)
- ・児童文化センタープラネタリウム入口扉鍵修繕 (教育施設課予算 9月)
- ・プラネタリウムプロジェクター更新入札 (6月)
- ・児童文化センター風力発電設備改修工事 (10月)
- ・児童文化センタープラネタリウム冷却ファンモーター交換修繕 (11月)
- ・児童文化センタープラネタリウム4軸モータードライバ交換修繕 (11月)
- ・児童文化センター小水力発電出力表示付看板設置工事 (1月)
- ・外壁落下防止工事 (1月9日～3月上旬)

6 予算関係

[目標・ねらい]

- 予算の適正な執行管理に努める。
- 広告収入やふるさと納税等の財源確保策に継続的に取り組む。

[今年度の重点]

- ・施設の老朽化に伴う修繕や備品の購入等について、優先順位付けや内容の精査を行い、令和6年度に効果的に実施できるよう予算要求を行う。

【実施状況】

- ・自動販売機設置に係る条件付き一般競争入札の実施 (887千円増)
- ・ふるさと納税誘致ポスター作成、掲出
- ・ふるさと納税の充当 (ファーストコーポレーション 10,000千円、ボーチェ 500千円)
- ・ネーミングライツ広告収入の充当 (公園管理事務所: 300千円)
- ・絆でつなぐ環境基金の充当 (小水力発電出力表示付看板設置工事 1,397千円)

7 その他の実施事業等

○視察・講義等対応

- ・共愛学園短期大学視察・研修（5月24日） 10名
- ・群馬大学教職大学院研修（6月2日） 6名
- ・群馬大学共同教育学部生涯学習論Ⅱ視察・研修（令和6年2月15日予定） 5名
- ・前橋市初任者研修講義：自然体験活動・参観授業：プラネタリウム（11月14日） 30名

○関係課、各機関・団体等との連携（確定しているもの）

関係課	内容	実施日等
公園管理事務所	公園施設、環境の不具合等の報告や整備、修繕等迅速な対応の連携	通年
政策推進課	「わくわく教室・カードゲームでSDGsを知ろう！」協力	10月28日
交通政策課	前橋市交通安全コンクールの作品展示会場・表彰式協力	12月2日
環境政策課	環境イベント「まえばしこどもエコフェスタ」共催 環境教室（5年生）への情報提供	令和6年1月13日 適宜
こども施設課	第二・第三保育所交流事業 バス、ホール（雨天時）貸出協力	令和6年1月30日
総務課（教委）	「夏季教室・プログラミングでドローンをとばそう！」講師協力	8月19日
粕川支所、粕川公民館	赤城山ろく里山学校実施連携（伝統芸能学習等）	12月2日
大胡公民館	赤城山ろく里山学校実施連携（季節の星空観察）	12月20日

関係機関・団体等	内容	実施日等
群馬県産業経済部	「わくわく教室・tsukurunを体験しよう！」企画準備連携	7月8日
群馬県環境森林部	県こどもエコクラブ交流会会場貸出	令和6年1月13日
赤城少年自然の家、国立赤城青少年交流の家	一日自然体験活動における自然体験活動の拠点として支援 いただく	実施期間中
共愛学園前橋国際大学	自然体験活動応援隊「赤城で挑戦！・自然体験」共催	8月6、20、27日
前橋テクノフォーラム実行委員会（市産業政策課）	「まえばしロボコン2023」開催協力 「未来の夢ロボット作り教室」開催協力	8月23日 11月11日、12月9、23日
前橋商工会議所	前橋市発明考案展の作品展示会場貸出	9月22～24日
宇宙教育センター指導者（宇宙少年団）	「わくわく教室・宇宙ワークショップ」開催連携	通年
アツイぜぐんま！こどもウクレレ祭 in 前橋実行委員会	「アツイぜぐんま！こどもウクレレ祭 in 前橋」共催	9月2日
太陽誘電㈱	「わくわく教室・親子で社会科見学 デジタル技術で未来の自転車を体験しよう」企画準備連携	8月23日
ワンダーネイチャーラボ	「ワンダーネイチャーラボ+わくわく教室・プラネタリウムを見て星空の香りを作ってみよう」協力	10月1日

○寄附受入

- ・大栄産業㈱：売店内抗ウイルス・抗菌等対応コーティング実施（6月28日）
- ・前橋東、前橋中央ロータリークラブ
：「エンジンゴーカート1台」寄附受入・感謝状贈呈式実施（10月12日）
- ・関東水力工事㈱
：「前橋市児童文化センター水車発電機他修理工事一式」寄附受入・感謝状贈呈式・定例記者会見実施（11月24日）

○「野メダカを育てる会」事務局

- ・前橋メダカの保護・育成と、児童文化センターの環境整備を行うボランティア団体の事務局としてボランティア活動を推進する（市民に野生メダカを配付 11月3日）

○常設展示など

- ・前橋市幼児児童生徒図画作品展
※国公立幼稚園・保育所及び希望する私立幼稚園・保育園の作品も展示（平成26年度～）
- ・理科研究優秀作品展
- ・天文関係展示「プラネタリウム周辺」「ほしのみち」等
- ・環境学習展示「スペース eco」
- ・メダカ等観察コーナー「わくわくアクア」、田んぼ、ビオトープ「むつみ川」
- ・昆虫観察コーナー

○情報提供

- ・情報紙「わくわくキッズ」の発行6回（発行部数：約2,600部/回）
市内全小中学生に配布 他各学校、幼稚園等に掲示
市立小中学校在籍の児童生徒については、タブレット配信で提供（令和3年10月～）
- ・Web ページ等による情報提供
- ・児童文化センターのパンフレット
- ・館内掲示板及びモニターにおける情報動画再生
- ・メディアを用いた紹介（まえばし教育通信、まえばし City エフエム、まま・ここっと（子育て情報誌）、旅行・タウン誌等）

○危機管理マニュアルの活用

- ・事故や怪我などの発生時に役立つよう作成した危機管理マニュアルをもとに、館内打ち合わせにおいて全職員で確認
- ・災害発生時の避難訓練（10月12日）：地震・火災発生を想定した避難経路の確認、消火栓使用方法に関する研修
（3月上旬）：地震・火災発生を想定した避難経路確認等実施予定

○けがや病気等への対応

- ・看護師、養護教諭の資格を有する窓口対応職員の配置により54人のけが等に対応し、病院紹介の必要事例が8人、救急車の要請事案が2件あった。
- ・来館者が安心して活動するための支援として有効であった。